

8 7 6 5 4 3 2 1 0

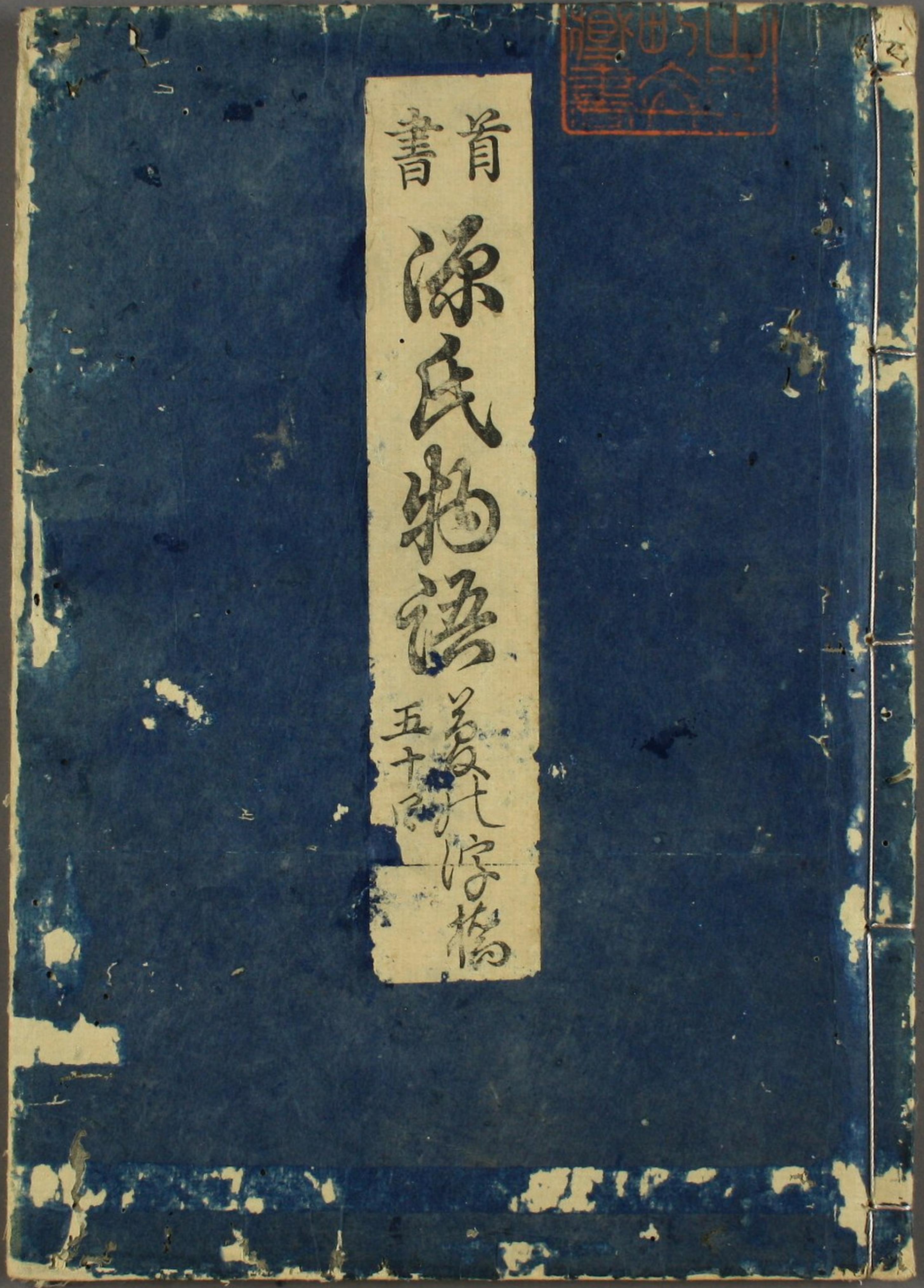
60 70 80 90 100



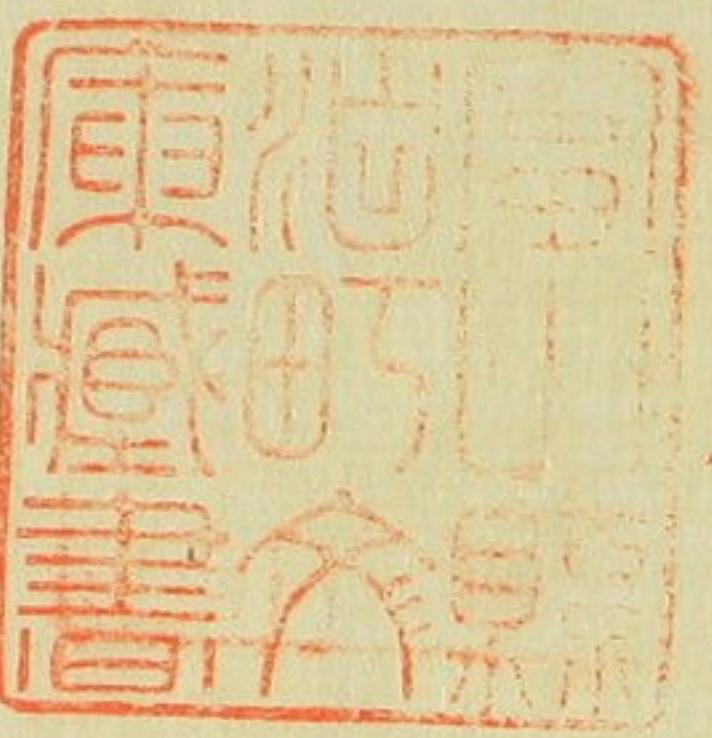
首書

宋氏書譜

五十一字稿



九十四





目在文

一名法の師のうげとまくら道とまくら山よゆゑんまくよゆゑ  
宇治十世卷の名ハ奇ニ羽織ヒテテテテテテテテテテテテテテ

淳橋ハ古奇乃哥よ世中ハ夢のまゝうれ淳橋ともうめうとて夢は橋と付く其子細河清抄より相違  
うくありけり手習卷の終れ羽もうちやん夢のむちとも哀ともうそんとまやあづきんと海舟ひと  
董のむひねりようをけり今年ハ董サ四歳の春より夏生てゐるアラヒト  
細董セ七歳手習卷のまハ五月邊もそのまゝ有へし此卷ハ其末の夏也卷名事河源又季考ゆ夢のゆ經文  
おどひき別而ハ一卷の名徳而一部の名うへとまと此卷よりてハ手習君の一生をゆう夢ハト或陸奥  
ようす常陸ようす都よのむりてもらうきくよううひ字治てもさあ物足てあくどうしうひ野  
よづらすて悉夢れ中よあくととえゆう又一部の名もとされハ桐壺卷よう源氏君の一生れす幻卷よあき  
もう董大將の一生ハ此卷よあくととえゆう盛者必裏の夢幻と古今よあくとてアヤシム也夢は橋とつまう  
祠うきと題号よどくす古來不審あり今案此物語ハ偏よ莊子の筆法ようれうきく彼逍遙遊篇も逍遙  
祠うき有て遊の字ハナ・又ハ齊物論も物と心として心とて名付う也此夢は橋も  
夢とよんづら也夢ハ道あり又橋ハ道もうき水の上も道とくと心有とて名付う也  
付くづるや其心甚深う者乎此卷ハとくとくと齊物論とて名づくや齊物論の始よハ南郭子綦隠ル而  
坐欣如高木とえうきうして胡蝶の夢はうそとあう此物語ハ手習卷のまゝにて移本うみやう  
みて入よもれてやくさんとくきて此卷こそ昔のうゑ  
あれとくよあかゆうゆうゆうやうふうううう夢より  
とくもえどんとうきく胡蝶の夢よ周とうるうと書  
うよ詩合せうやき歌の事ニ  
。山よかくて花月の山の中堂にて董の經佛供  
養の事也手習卷のとくとく

。つまひ巴按あをつまひ  
。ひひ一品宮の孟僧都の祈そて本復也

○  
河  
駿

細僧都の心也

（アリ）モモカ、或妙僧都の馳走トシ也

卷之三

。とひそく。或抄 茅の約也。  
河ふ野徑ワタリ 此處コトノハリ 拙仙翁ゾセイウ

卷之三

○もやぢ  
○もやぢの常  
細僧都の返答

○久尼或移  
朽尼古之也又懶廢不日之

○京之  
御事  
事也

卷之三

○うのまくは、弄夕霧のうひ野の邊と  
夕ゆきのしまで、へしきくともや、草の羽

○  
アラシマ  
益是よりまの祠也

。うの山里ノ孟宗の知行へれどもてゆき

。トシモトモハ或様トシモアレトモアラタリ  
て肖拂ヘモアシムトウタタタタタタタタタタタ

細葉のとうとうやうよへ乃  
ひうるも 花鳥の本うもろううふへ恨う也

。されとよとべと万水 僧都の心也 手賈ひア

。法師ヒシカク孟僧都の救身ヒシカク也  
ニ尼ヨエリトロトロセ

。アシニシスヘ 或被 僧都の返答ヒシカク也  
思案

。いとうきち 益是とう僧都の返答也

。アシニシスヘ 或被 小鷹也是とう手賈君のか野る住  
所始終ヒシカク也

○らうき 河 老氣老病也 一云勞氣也  
細 不勞之美 あらうき

河老氣考  
細不勞の義もりとへ

○もろもろと  
或段手習君ヒアリタマシ也

のやうのとまつら、或は 婦尼の、或は女房の、  
手習をゆるひ」と

○世人を  
細浮舟のよ

昔物語よりすましのよ　江定家卿のまつがに物語有す  
可勘とあるとのいハ殯殿也天稚夜薨逝の後下照姫天子  
喪屋とうて殯モシヒテ或云もクセ也又續日本紀云  
大室二年十二月辛酉日殯西殿太上天皇崩うむと有或之魂

殿より云乞礼記より殯宮といひ聖德太子入定の事  
と夢殿といひとも同義也此より若呂后高祖后ともいふ  
乞彼后的山陵と數百年的後赤眉の黨室としる爲  
よりあらず死へば叢麗にて安存仍赤眉の黨  
是よりも子人祀之と後漢書より唐书より宋人  
の口玉と合せても埋めれど年をねね形骸不爛  
壞え我朝より上古ハ帝崩れ時玉と合せ奉り  
弄向海汎つれも不相叶ふや入棺もろんの蘇生もろん  
也宇治の近くに難波の近くに穗天皇より奉て物の御  
宇治の御上神ハ相叶へとし 花鳥說大廬同仍略之

心不乱 河一心不乱 阿弥陀經

河天狗 黄帝伐蚩尤之時以正月十五日  
伐軻之其首者上爲天狗其身伏而成蛇靈本朝日令  
花天狗ト云ハ星の名也 盂本朝ノ用不天魔の類ヒ  
エリ

○えみゆそ 五水 手習君の字治う 直ふ野よしうみ  
マネテツラハ小野の近きをもゆかよつてや  
〇三月ハクレ 細僧都のタケトスハ三月のあれも齋前  
ム秋ム成てとされハ四月五月六月の三ヶ月ハヨリ  
人のトモウトス

。あう年之瓦を君のせと手冒ゆよドクシ  
のんと

。のうのこゝりよ。河以前惠心僧都千日の山籠の時西坂  
本光寺下山せんまうすとらひらまくらうえ

。正也アリ。孟出家也。

。此老くもの真教尼君のアリ。

。ひきと細茎の心也。或小宰相の心也。或沙門也。

。ゆかの心也。花此卷の名ふもあら。

。うそ細僧都の心也。董の愁傷をかうと  
。せよハムハム。或妙尼ヨウトアリ也。

。つとひれハ。或妙遠應ニヨウトアリ也。

。僧都科也。

。うそ細僧都の心也。董の愁傷をかうと  
。せよハムハム。或妙尼ヨウトアリ也。

。かく。うそ細僧都の心也。董の愁傷をかうと  
。せよハムハム。或妙尼ヨウトアリ也。

前田の御子の如きは、或は僧都の約也思靈よせと云ふ。

ヨリタマヒノトドケ 細井の返答也  
河生王家無等倫 ヤフノツハキ  
八十之子孫 日本紀玉之子孫也

のまゝ細  
出家のよ

おきん  
万水  
手習の母ひよし

月のことを或段 手習の事と母へ書く  
うのまへあくへきはさうへて尼君の事

○みさきよ 益  
茎の僧都よつてやまの

卷之三

○さうりとくへ細僧都の心也  
或様是ハ未習の事也乞ひをとくへるは師も  
愛れの心ハうやかとまきてせはと

。ほえよべ　或按手習をハ取更戒とこそと又其を  
ちうべと破戒ありてハ我罪とえんと号すれど也  
いまうやうん　細　僧都の返答也  
或按當座とつひのれぬ也  
。月づらて或按此月づらて僧都ひきよるつて此方  
案内して内供ヤト

ひと心もよきと 万水千山の心也

のやうよ 細手習卷ようちやくん夢の裏と  
えふといひ人也

ておの身をかねのつぐむ  
いとおもえがゆづるまへ  
もみづくあわせがちかん  
みわくまくわくじとくあく  
さうすら肩からてのやどよ筋  
せうきこすくせやんとく筋  
とおきあくまつゆの筋  
くれがまくしてく筋の筋  
乃はくわくともゆあてあ  
くわく.  
くわくとむちあくと  
くわくとむちあくと

えりりん 万ト 葵の利也サホ君とまつ子守アツ  
ハシノ僧都の下ニテアラツアモヒト

ミメヘトハリテ 真振 葵ヒハリテ

。さよナセウス 盂 僧都の返答

。今ハアセウス 或抄 葵ヒハリテ

。うらヨヒテ 細 葵也

。うええウキ 良振 葵ヒハリ

。そメのうちモト何俗

。三条の宮 細 壱三宮也

。位アツアツ弄官位アツアツて葵心のまきまき  
アトヨモシテ心殊勝也

。又エアセウス 今上セ三宮ヒ葵アキモヒ

大やをつゝく もち前と又訓尺の刊也 大やをつ  
アの不及て ともほくと可心得て うりと刊つ  
もうちさふ也 或按公私よきと難道る有  
うてこそ世の常れぬましとどれと

まことひとみゆき 万水蟹のうれすも

おのぬひき 益は舟、  
ま

ひくら或姫 茅の出家れひくらゆめと譲也

きくら孟 僧都をと點頭也

オヤシモ小野のゆせ茅れ也

れよしきそ、汝其君よきと茅の刊也

文として  
僧都也

もろすり弄 手賀のオレ童よ僧都の羽也手賀の  
君とちうひへ也  
細舟とも我舟子よやくへそてぬま

孟子細論

河 分 散

。青葉の山よ 河只青葉の山也 非名不見八雲  
勘付若菜巻 六帖三 紅葉も秋ハヨモキテ水鳥  
の青々山の色也アラモハ  
弄 非名不名不ハ若枝近江ホヤア  
。や水の壺 弄 宇治川より壺とアラモシタアリ  
宇治の壺此外ハ不見テ  
巴秋半習君宇治ヨハ九日、より三月までアリ、  
強々れもハツアリトモル

○谷の軒を河谷の軒と不審ナリよろづて谷のきハとも  
トモツト本も有今案也谷の軒端とハ谷の端也谷の戸  
ともツ谷よりアの可有コトモヨウツレモコモ物也山あひか  
トヨウスル所と谷のスルといす也タ霧卷より底の軒と  
あり半習卷ともスルタヨウ軒端と有是又同風情也  
一説云トモツタヨウ谷の軒端トアリテ近くスル心を軒  
端の松梅ヲヒツメ行よ木とシテ近くスル心を軒  
スル心也 花 河海ヨニの心をナシヤウタミテ案をも  
ス谷の軒端ハト谷より家軒端ナシムシムヒの山  
トヨウスル谷のスルれヨウスル所といもんもナシヒヤ  
ヘトトスル所也

○ひき河引子海草也 狂食 飯とゆりアヒ云也  
日本紀 主ヒ云不ニ先飯ヒテア諸社祭ニ上卿飯ヒ催  
時ノアアアアモウレモアモシモウ也

大將とのいハ或抄 又そしよわう元もものり也

わきびひがひよ。すまむり。かく。うで  
おがとま。まか。うで。あわきもと。  
せうくひはひ。あ。こ。う。も。え  
めど。え。う。て。や。と。あ。い。が。じ  
ま。り。れ。ば。せん。の。く。く。く。  
な。が。野。よ。ふ。い。と。く。ね。う。ま  
お。の。ち。が。ぐ。れ。め。そ。が。く。  
な。や。水。み。か。う。が。り。と。者  
つ。よ。と。じ。の。た。く。ふ。見。や  
名。の。め。と。よ。う。み。き。く。と  
火。の。ひ。く。く。ひ。く。く。  
く。ま。る。も。り。よ。あ。あ。ん。せ。き  
ひ。く。が。く。く。と。く。う。き。く。  
あ。あ。な。お。う。ま。と。い。と。く。  
と。ま。は。う。す。と。い。と。く。  
か。ま。う。の。せ。と。い。と。く。

ひと此世とも  
細は世の心也うつまよナ頗身の  
氣もそれとひりきれらセ

のうろ山ち　奔　宇治へうかりのあそせりよせ

○よ川ユクドヨ 細 うの 鳥也  
孟横川ハタケ川へとくらへゆきてひうととくらむと

。又の日立よりよ巴抄例の差れゆきゆき也

○三人分の巴批  
おもてなし童子を也

。よひよきて 祖  
ひづらの守れ子也

。あくまでアリ 河吾子 日本紀女とハヤシトモアリ  
トツ男とハ兄とアリトモアリ也 或按其の冠

のいとくよ 益は舟の在世といふ君よ某の所也

○まことよ 重ねてよまうむ同ハ母モモシタニモ  
くちくわゆ也

或歎小君之也

。うといと花どハ唯也レテナリ也泪のまゝもビ  
よそとあくまつて、う也

○こ君や まご 小君也

○匂い付て 河臆

うきの筋をよ或歎尼君の羽也ともやの筋  
うきの筋をよ或歎尼君の羽也ともやの筋

。あつて、久慈尼君の二ハ何うと周章たり  
也。

。ひときわ 巴極 小君のアラカルトを

。もやうう 河海の木もやう 矢是シトキヤ 良文集

○アリハ 河 薬座 圓座也  
○モナモハ 巴波 僧都ハトモトノカタニシテ  
モナモルトニ 細 中童の内

○あくしゅと孟僧都の文よ僧都の名と云ふ。され  
ハキやうようじと云ふ舟のいもれねと

ひとうにて或沙尼君のりよせ

。もくこよ 弄僧都の文丸羽

○ももこ）或抄 出家也出家あつての出家で  
後悔の心も出来出家をもとむ時ハ却而佛のうへ  
ひきと

ハセニ 並せんきよト やうど心也

可心也覲近

河心地觀經云若善男子善女人欲阿耨多羅三藐三菩提心一月一夜出家修道二  
百萬劫不墮惡趣常生善處受勝妙樂遇善知識

河 悪  
細 事 は ま り て し

。とくに細委ハアタガシトテシテ人ハアタガシ。

の如君ハアれよう  
立候尼君の刃

河外集

○此子ハ今ハと  
身教 手習の心也

。宇治なる時、已故ひらふと、ハ同石也其後母  
きのつわて宇治十七歳、童也入水せたる時  
是ひ出一童也

。ゆうのやうう 細夢の字三

。とへくの 城姫 白宮董のよど、曾我とまき  
母のあらねはまきと

。うらかわく 細浮舟よ似う

。かくらの或秋 尼君の村此小君と見ゆまし

。うようういまハ 欧波 手青の心

。きよへとわひと花は舟君の尼君よ語けうむ

。あくまーうきと 欧波宇治十九歳の事也

アラカリの或抄  
葉の内供として宇治よゆうじ  
うとうくらむ也

○さみのくもとく  
万水大尼君の孫也

おへいとうの 万水 母なる也  
おまくまきを 故秋 母の我とよ

○人子也  
細小君也

細母の事也

やうとまくやをもよおひすんと  
かねだくらうんふくまくわんと  
あくまくやうやくよぐく  
ばのうひういへぢうく  
えくちづくふもじとまうび  
ぎくとくじく風ふかき人  
よもわくとくれどやくえん  
ときんやうひやうのくも  
あゆくとくにくとくく  
あくまくやうやくよぐく

○僧都の如き人細主ひ也

○花尼君の返答也  
或抄り下さる事

○又はうの文 孟 茲の文也 小君の羽  
○ゆわよそ 或妙 卧目也 泪と催くろ目也  
○きや 河 驚破 弄 ソノヤ心也  
○文 ムカシ人ヒト或妙 尼君の羽也  
○きみうのミツタマの人 河頭證人又見本人

。うとの様をよ万水小君は機軸へとくの  
所へ尼君のにてせうされと大將の三の使  
ふみせ所ハ子細あつて

。あやへと 細童の句也

。うと此文と 故筆の文を手習直はされ  
る爲いと

。うとトモトモ 就教尼君むとそ

。うとといとく 万水尼君の手習と教訓也

。うれすもりて 故筆 手習の我すもりて也

。うとすまぬ 万水 小君の心也

。うとしきの或故 手習心也 筆の古文を下る  
河奥入へとくへどりのひきうや世中とありし  
うとみ我身とらん

。きいの物めでの 初草子地也

。孟小野よかくとよてり也

○きくすもん 花 是うりハ茎のえだ羽也  
○ゑくよつとありも、或按手習のとく爲われも

僧都の弟子えうされハ僧都ニ射してやうせ

○今ハいそう 細スルアトマシ

○夢うと 細夢の字四

○法の原と奇董也 細法の原とこそ僧都と、頼  
ひらひらと、口をきくるよしのふるは五文字と  
の字うへへりうき也

○吟人ハ古小君ふくとれほくとれとも茎の我

母子をうへよくと

○のあめぐるめにとづくく  
○のあめぐるめにとづくく  
○のあめぐるめにとづくく  
○のあめぐるめにとづくく

○のあめぐるめにとづくく

○のあめぐるめにとづくく  
○のあめぐるめにとづくく  
○のあめぐるめにとづくく  
○のあめぐるめにとづくく

○のくはくと 真按 手習の心也 茎の文の字也  
○のくはくと 真按 尼よりうるを也

○のくはくと 真按 尼君の心 或按羽のうるを  
○のくはくと 真按 尼君の羽

のうちのうち、ややり或妙手習の羽

。いさぎの夢 細夢の字五

。此の文をとも孟子ひきうきて、ハソウくよると  
。うひよもんと  
。りてもソア 巴抄小君よりちとうすむと  
いとアラヨリミ、孟尼君の羽也

花はもとよりあくまでも  
河海の説いひとわざなり  
。いとこそ 水手習の心也

。 ウラヲ 細  
尼君也

物のまゝや、或段是どう手習の名と尼君へうる

。うきはともちく或様案のとくと

。今も人ひと已故今もよひよてかとまざり  
。こゝをさういふ

。さうよつまきを孟あらハ饗應せりとす  
。小君のうたひゆふく

。ヨリタヒトキマサレ孟小君の初也ヨリタヒト  
。セシヌ一言の内返わへと

。さうんと已故小君の語と尼君の舟へう  
。さう也

。雲のうるよ花古今あらハ雲ナラヌニテ神  
の音ヌテアレニシヤ渡ん  
細引等未勘也ハ横川ハ雲のハトトモトヘハれど  
あうべはさうてかくさうふるハ風もくもくと  
あくへそひぬと小君よつぐる也山ねくもく  
とツ一本ありハあらうる

。今も人ひと已故小君の心也

細  
薰也

。もとより中へ或は以下薰の心也ゑくよし  
也

○河落置也。毛の巻より。あひと  
とあう又総角巻より。とてくわく。まきまきん  
と有心也。花とくはとくとくと心やくも  
うくよくされて返るもあくわくと或はす  
らひよく也。河海の落置といつてもうく  
細花鳥の説いりゆうとくとくらく有うとも  
董の字語ひくとくとくらくやううとくとくらくと  
○かくよくわく花物語の書は本すと

細紫式部此一部と我身のうきよとゆをあせりとて夢や何やのやうよきてさてま  
るやうはるやう間とゆふ心せやうすとゆ未とくまうだらそな夢みる甚深微妙の趣  
向とゆふうす  
或抄本よりくわうの詞うむと本もありとぞ

己はうひきをひまむらひへりは牧  
うとれ抄成せんも不せされおわびの裡を  
このあくよみて我者裡とするものか  
の海のうすこころたるものとも思  
ひよくそぞりの心か／あくねひきまわらう  
人のよきとがくんとくらふも／さ

寛永十七庚辰年六月中旬洛北岸一亭齋

寛文十三癸巳歲二月吉辰

書林 積徳堂梓行

雒陽西御門前

